

大野城跡

[表のキャプション]

665 年に築城されたこの巨大な城郭は、かつて大宰府の北にある四王寺山の山頂を囲んでいた。

大野城は、南の山にある小さな砦とともに、日本最古の山城である。築城から 1350 年以上経った後も、城壁の大部分は当時のまま残っている。

[裏の解説]

大野城は、博多湾の警備を目的としたいくつかの要塞のひとつとして構想された。663 年、朝鮮半島の百済王朝（～660 年）の残党と日本の同盟軍は、中国の唐（618 年～907 年）ともう一つの朝鮮半島の王朝である新羅（～935 年）の連合軍に敗れた。急速に拡大する唐の侵略を恐れた日本の朝廷は、この敗戦の影響を受けて 664 年に水城、665 年に大野城と基肄城の築城を命じた。大野城は、博多湾に向かう敵船を監視するのに適した見晴らしの良い場所であった。

後世の多くの城郭とは異なり、大野城には高い天守閣や堀はなかった。その中心には、8 キロに及ぶ土と石の壁に囲まれた陣屋があった。朝鮮半島の山城を模した大野城の築城は、百済からの亡命貴族達が監督した。高さ 8 メートルにも及ぶ石垣を築くための建築技術を、彼らが導入した。大野城の城壁は、尾根に沿う部分には土塁が築かれたが、谷間には石垣が築かれた。研究者によって、

これまでに 9 つの門跡と倉庫や帷幕を含む 70 以上の建物が発見されている。結局、侵略はなかったが、大野城は 10 世紀頃まで有人要塞であり続けた。

土塁と石垣の双方とも、多くの部分が現存している。大野城総合公園（まどかパーク）からハイキングコースのひとつを行くか、それらを見学するには、山上の四王寺県民の森センターまで車で行き、そこから歩いていくのがよい。